

除草剤利用開発 21年目をスタートする

財団法人 日本植物調節剤研究協会会長
河 田 党

昨昭和43年は2,4-Dが兵庫県その他全国各地で初めて試験に着手されて、除草剤利用開発の端緒となり、しかもその後における除草剤の発達普及が今日のような盛況を呈するに至ったことを祝福する意味において、除草剤利用開発20年記念行事を計画したところ、幸いに関係各方面の絶大な賛同を得て、去る12月13日、祝典および記念講演等盛大に挙行することが出来たことは、私として誠に喜びに堪えないことであった。

したがって、本年からは除草剤利用開発第3番目の10年をスタートすることになったわけである。顧みると、上述のように昭和23年2,4-Dによって出発した除草剤が、最初の10年目に当たる昭和33年には出荷金額6億7200万円で、農薬総出荷金額176億6400万円の3.8%になったが、次の10年の間に107億8300万円、農薬総出荷額632億0940万円の17.5%に(昭和42年)に達したわけである。しかし、これを仔細に見ると昭和37年、即ち除草剤利用開発後14年目位に既に農薬総出荷額の17%位に達して居り、それ以後今日まで横這いの状態にある。これを外国の例と比較すると、例えばアメリカでは1968年除草剤の農薬総販売高に対する割合は36%であって、なお今後その比率の上昇が予想されている。今日、わが国農村の労力事情は益々窮迫の状態にあって、除草剤等の利用による労力節減の要望の高くなっている情勢下で、しかもこのように利用の延びの鈍っていることは、わが

目 次

作物との対話	
東京大学農学部	
教授 戸 莉 義 次	2
年 頭 の 辞	
農林省農林水産技術会議事務局	
調査官 仮 谷 桂	2
新 年 の 挨拶	
農薬工業会	
会 長 西 圭 一	3
世界の除草剤の動向(1)	
科学技術庁科学審議官	
農学博士 石 倉 秀 次	4
昭和42年度冬作関係除草剤試験成績概要	
日本植物調節剤研究協会	10
昭和43年度水稻作関係除草剤	
試験成績概要(1)	
日本植物調節剤研究協会	15
新除草・調節剤	
C M P T水和剤	27
S E - 401 水溶剤・S E - 402 粉剤 ...	27
C Y P R O M I D乳剤・水和剤	28

国農業の特殊事情によるものか、あるいは除草剤利用開発に関係ある我々の改良普及に対する努力が足りないためなのであるか、反省して見なければならない問題と考えられる。

成長調整剤については、昭和38年既に1.5%で10年後の今日なお1.5%に留まっている。調整剤そのもののむずかしさにもよることながら、今後の利用開発に一段の努力を望まざるを得ない。